

男女のよりよいパートナーシップを

ゆうCan

杉並区立男女平等推進センター情報誌

2016年

55号

性的マイノリティについて知ろう！

最近、性的マイノリティについて、マスメディアで取り上げられることが増えてきています。

区が昨年行った「性的マイノリティ」に関する区政モニターアンケートでは、

約3割の方が『性的マイノリティもしくはそう思われる方が周りにいる』、

約7割の方が『性的マイノリティの人々の人権が侵害されていると感じる』と回答されています。

誰もが自分らしく生き生きと暮らせるよう、性的マイノリティについて正しく理解し、差別や偏見をなくすることが大切です。

今回は、区内で活動を行っている「すぎせく 杉並・性的マイノリティ共生の会」に、

性的マイノリティについて理解するために必要な基本的なことを書いていただきました。

また、当事者の声も寄稿していただきました。

性的マイノリティとは、生まれ持った身体性の性別に違和感をもつ人や、好きになる人の性別が同性である人などのことです。例えば、同性または両方の性、もしくは性別に関係なく好意を感じる人、戸籍の性や身体性の性と自分で思っている性(性自認)が一致しない人、男・女という二分にうまく当てはまらない人、そもそも恋愛感情や性的欲求を抱かない人などそのあり方をすべて列挙することが難しいくらい多様なあり様があります。

そして、それらのあり様はひとつひとつきつちり区別出来るものではなく、グラデーションのように濃淡がありつつ連続しています。そのような性のあり様(セクシュアリティ)に関して多数者ではない様々な人々の総称を、性的マイノリティ(セクシュアルマイノリティ、性的少数者、LGBTsなどとも言われます)と言います。

人は生まれた時の生物学的な性別によって、「男性」と「女性」の二つの性に分けられるとする「性別二元論」の考え方のように、そうでない性のあり様に対して不寛容であったり、男性は女性を好きになる、女性は男性を好きになるとする「異性愛主義」の考え方のもとにそれ以外の人を排除するような社会的な一面があります。

「性的マイノリティ」とは？

このような社会環境の中で性的マイノリティの当事者は日常生活や社会制度などの様々な面で不都合を感じながらも差別や偏見を恐れて声をあげられないことも多いのです。

「性的マイノリティ」の人はどのくらいいるの？

電通ダイバーシティ・ラボが2015年4月に約7万人を対象として行った「LGBT調査」によるとLGBT層に該当する人口は約7・6%であったと発表されています。このように、さまざまな統計から日本では、概ね人口の3～10%程度であるとされています。

LGBTs

「杉並区男女共同参画行動計画」改定版を発行しました

杉並区では、平成25年3月に策定した「杉並区男女共同参画行動計画(平成25年度～平成29年度)」に基づき、区政の各分野において男女共同参画社会の実現に向けた具体的な取組を行っています。このたび、これまでの各取組の進捗状況を踏まえ、主に総合計画・実行計画及び関連するその他の計画等との整合性を図るため、本行動計画を一部改定しました。

この計画は、特に力を入れるべき3つの重点テーマと5つの目標を定め、男女共同参画社会の実現をめざし、施策などを具体的に体系化したものです。

◆行動計画(改定版)は、4月上旬から区公式ホームページでご覧いただけます。冊子は区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援係(区役所西棟7階)、男女平等推進センターで配布予定です。

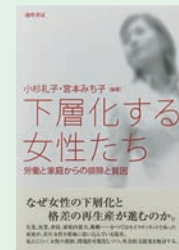


図書コーナー

ご活用ください!



男女平等推進センターでは男女共同参画に関連する書籍を揃えています。貸出しも可能です。手にとってご覧ください。御来館をお待ちしています。



『下層化する女性たち』労働と家庭からの排除と貧困 **新着図書**

〔編著〕小杉 礼子・宮本 みち子 勁草書房

労働市場と家庭からこぼれた若年女性が貧困に陥るケースが増えている。ジェンダー問題と関連させ女性の下層化を防ぐ方途を検討する。



『同性愛をめぐる歴史と法』—尊厳としてのセクシュアリティ **新着図書**

〔編著〕三成 美保 明石書店

性教育のみならず人権問題としてのセクシュアルマイノリティ教育のためのテキスト改訂第3版。



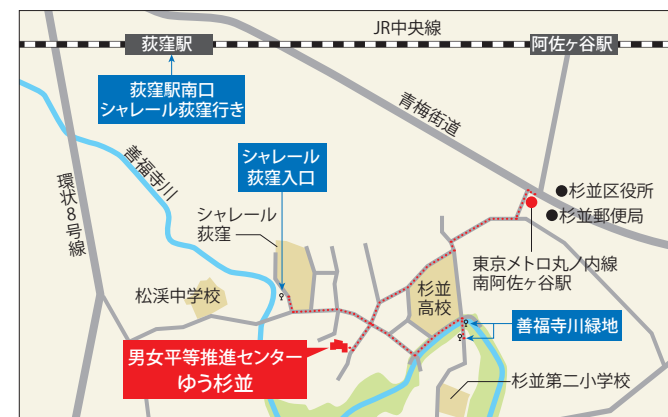
『日本の親子』不安・怒りからあらたな関係の創造へ **新着図書**

〔編著〕平木 典子・柏木 恵子 金子書房

育児不安や子の受験・就職、年老いた親の介護など、現代の親子が抱える労苦の中から見えてくる、あらたな親子関係の未来像。



ゆう杉並 杉並区立男女平等推進センター



〒167-0051 杉並区荻窪一丁目56番3号 TEL.03-3393-4410

■開館時間

9:00～17:00

■休館日

月曜日(祝休日の場合は、翌日)

12月28日から1月4日まで

●関東バス 荻窪駅南口発

シャレール荻窪行→「シャレール荻窪入口」下車→徒歩5分

●杉並区南北バス「すぎ丸」けやき路線

JR阿佐ヶ谷駅←→井の頭線浜田山駅

「善福寺川緑地」下車→徒歩10分

●東京メトロ丸ノ内線

「南阿佐ヶ谷駅」下車 徒歩15分

※駐車場はありません。

男女平等推進センターへの道順はこちらも参照してください→



杉並区立男女平等推進センター情報誌「ゆうCan」第55号 平成28年3月 発行:男女平等推進センター
【問合せ先】 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 杉並区 区民生活部管理課 男女共同・犯罪被害者支援係 TEL: (03) 3312-2111 (代)



「LGBTs」って なんですか？

“LGBT”とは、レズビアン(Lesbian)※、ゲイ(Gay)※、バイセクシュアル(Bisexual)※、トランスジェンダー(Transgender)※の頭文字をとった略語で、性的マイノリティの総称と説明されることがあります。分類のうち、2つ以上に当てはまるという人や、どれでも説明できないという人もいます。人間のセクシュアリティは実に多様です。“LGBTs”の“s”にはそのような意味が込められています。性のあり様は、個人的に見ても、社会的に見ても、歴史的に見ても流動的なものといえるのではないのでしょうか。

【※】レスビアン(Lesbian)
……女性に好意を感じる女性
ゲイ(Gay)
……男性に好意を感じる男性
バイセクシュアル(Bisexual)
……女性と男性に好意を感じる人
トランスジェンダー(Transgender)
……出生時の性別とは合致しない性で生きる人

よくある誤解

性的マイノリティになるのは個人の選択の自由であるなどとする主張がありますが、多くの人が、異性を好きになることを選んでいないように、また、男性あるいは女性であることを選んでいないように、性的マイノリティも自分のあり方を選んでいる訳ではありません。

世界的な動きは？

同性どうしの婚姻を認めている国や地域がある一方で同性愛を違法とする国も多くあり、性的マイノリティの当事者は地域によらず世界各地で人権侵害を受けている現状があります。

国連では2011年6月に性的指向と性同一性に関し初めて国連決議を採択し、性的指向や性自認を理由にした、個人に対する暴力や差別についての重大な懸念を表明しました。日本はこの決議に賛成しています。

日本での取り組みは どうなっている？

日本では2004年に「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」が施行されました。

また、同性どうしのパートナーシップについて2015年に渋谷区や世田

谷区で取組みが始まっています。

打ち明けられたら どうすればいい？

いきなりは理解できなくても、まずその人の話を聞いてみてください。でも打ち明けられた話を本人の了解なしに他の人に話すのはやめましょう。以前と同じように接してください。当事者の多くはするように特別視せず接するあなたに安心します。

性の4つのとらえかた

性については次のとらえかたがあります。

●**身体の性別**
生物学的な性別のことです。

●**性自認**
自分自身の性をどうとらえているかという概念のことです。はっきりしている人やあいまいな人、とくに定めない人もいます。「心」の性とも表されます。

●**性別表現**
性別に関して服装・身繕い、しぐさ、しゃべり方といった外面的な特性や行為で表現すること。国、地域、社会、文化、世代などにも影響されるものです。

●**性的指向**
好意を感じる性のことです。とくに対象を定めない人や、対象がいない人もいます。

この4つのとらえかたを用いても、個人の性のあり様の全てを表すことはできません。無理に枠組みにあてはめるよりも、目の前の相手のあり様を尊重しあうことがなにより大切なのではないのでしょうか。



親子関係

僕は20代後半に両親に対して自分がゲイであることを伝えました。しかし、両親の反応はとても厳しいものでした。父親からは裏切り者だと言われ、母親は泣き崩れてしまいました。僕としてはゲイであることを誇りに思っていて、お互いに隠さず自然体でいられる関係を作っていきたい、そんな期待があったのですが、昭和20年代生まれ、田舎育ちの彼らにはとても難しいことだったようです。それ以来、僕がゲイであることについてはお互いに触れません。しかし、その一方で関係は良好ですし、両親は大切な存在です。以前は両親に理解して欲しいという気持ちが強かったのですが、今は親といっても別の人、理解し合えることもあればできないこともある、と落ち着いて思えるようになりました。

テレビや新聞、雑誌などで聞くLGBTも、いざ自分の子どもがそうだとわかるとショックが強かったり、自分の育て方が悪かったのではないかと混乱する方もいるのが現状のようです。

(年齢:30代)



仕事

私が自分のことに気がついたのは高校生の頃でした。女の私が女性を好きになってもいいんだと知り、ショックや戸惑いよりもこれまでの霧が晴れたように清々しく感じました。そのため学生の頃は自分のことを話すことに抵抗はなく、周りの友人は肯定も否定もせず「カミングアウト」する必要がないまま過ごしてきました。しかし、現在の職場では「クローゼット」を選択しています。

「彼氏はいないの?」「いずれ結婚するんだから・子どもを産むんだから煙草はやめたほうがいいよ。」「ゲイなんて気分が悪い。」セクハラのような言動が職場で当たり前のようにぶつかってくることに驚きました。コミュニケーションの一環であると考えている人は少なくありません。多様なケースが想像できず、相手がどのようにその言葉を受け取るか考えが及ばない事もあります。全てのケースに対応できる言動はありませんが、相手を思いやる気持ちを忘れずに接することを大切にしたいと思います。

(年齢:20代)

※「カミングアウト」…自身のセクシュアリティを自分の意思でだれかに伝えること。親しい人等に打明けたり、メディアなどで公表することもカミングアウトと言います。「クローゼット」…カミングアウトしていない人のこと



性的マイノリティ 当事者の声

ジェンダーの呪縛

十代まで社会的に女性として生活していました。セーラー服で井の頭線に乗る毎日。電車で座れば「脚を閉じろ」、学校に行けば「髪を短くするな」、家に帰れば「言葉づかいに気をつけろ」と言われました。

男性として生活し始めたのは二十歳の頃。ああこれでうさいのから解放されると思いました。しかし今度は「髪を短くしろ」「ぐちぐち言うな」、次第に「男なんだから早く仕事を見つけれ、女を養え」などと言われるようになりました。

私はずっと同じ人間であるのに、何事もなかったかのように、手のひらを返すよう私を取り扱う人たちを、冷ややかに見ています。

一方で、いま、望んだ性で要求される振る舞いをこなすことで得られる安堵感や特権をしっかりと享受している私がいることも事実ではあります。昨年から始めた仕事でも、お茶出しに立つ出足の遅さが既に自分の身体に刻み込まれているのを感じ、苦しいがしています。

人間は、生まれ落ちた社会のジェンダー規範にどうしても左右されてしまう存在なのだとしたら、せめてそれを問い直すことは続けていきたいと思っています。

(年齢:20代)



日常生活

私は男性から女性に性別移行をして生活しています。LGBTの【T】にあたり、【MtF】(Male to Femaleの略語)と呼ばれています。MtF当事者は受験や就職など人生の大きな場面で不便を強いられますが、日々の日常生活の中でも不便を感じることがあります。

例えば、健康保険証には性別の記載があるため、病院や薬局で「他人の保険証を使おうとしている」と疑いをもたれることがあります。その度に事情を説明することも大きな負担となっています。

昨年12月より始まったマイナンバー制度でも、カードに性別が記載されているために利用しづらいという当事者の声を耳にします。

職場のトイレ利用を巡り訴訟に発展した事例も記憶に新しいところです。

当事者としては「元の性別を知られたくない」という思いが強く、なかなか声を上げづらい事情もあり、ニュースになる以上に不当な扱いを受ける事例はとても多いと感じています。

全ての人達に優しい“バリアフリー”な社会が実現することを祈っています。

(年齢:30代)



すぎせく 杉並・性的マイノリティ共生の会

性的マイノリティをはじめとするあらゆる人々の多様性が尊重される社会をつくることを目的に、平成27年7月に発足。LGBTsの理解促進のため、杉並区内で講演会や当事者同士の情報交換会などを開催。